FRIENDS Live 2018

Functional RevascularIzation ENcouraged by optimal Diagnostic Strategy Live

アシスト・ジャパン株式会社 共催セミナー

FRIENDS Live 2018 Luncheon Seminar3

「Next Phase for PCI Optimization -Utilizing Catheter Type FFR Device in PCI-」

会期 2018 3/2 FRI 12:10～13:00　会場 B会場　座長 琉球大学 岩淵 成志先生　演者 湘南鎌倉総合病院 齋藤 滋先生

FRIENDS Live 2018共催ライブコース3

「post stent FFR の有用性」

会期 2018 3/3 SAT 13:15～14:15　会場 A会場　オペレーター 琉球大学 岩淵 成志先生

座長 東邦大学医療センター大橋病院 中村 正人先生　倉敷中央病院 門田 一繁先生　岐阜ハートセンター 近藤 武先生

コメンテーター 小川 崇之先生（東京慈恵会医科大学）　角田 恒和先生（土浦協同病院）　角谷 誠先生（加古川中央市民病院）
木曽 啓祐先生（国立循環器病研究センター）　國近 英樹先生（済生会山口総合病院）
齋藤 成達先生（京都大学医学部附属病院）　塩野 泰紹先生（和歌山県立医科大学）

※プログラムの詳細はHPをご確認ください（http://friends-live.jp）掲載しています。各コース・プログラムは、現時点での予定となっております。
予告無くコース・プログラムが変更になる可能性もございますので、ご了承ください。

PCI時にFFRを測定する意義は？ 治療後のFFR測定にカテーテルタイプは有効か？

最近のワイヤータイプの FFR では、FFR 測定後の PCI 手技に通常のガイドワイヤーが使用されることが多く、治療後にはもう FFR は測定されない。アンギオ上の狭窄がなくなれば OK だろうと考えている。元々アンギオが信頼できないから FFR を測定しているにも関わらず、治療後の評価がアンギオだけで終わることはやはり問題が残っている。治療後の FFR 測定は非常に大きな意味があり、ステント留置後の評価だけでなくその血管に残っている病変の問題、さらにはその全身の動脈硬化の問題などイベントを予測するという意味で非常に重要な指標となる。ただ実際には、ステント留置後にもう一回プレシャーワイヤーを入れ直すのは時間もかかるし、ステントにワイヤーが引っかかったりすると、せっかく上手く入れたステントが、時には何かトラブルを起こしたりということも無いわけではない。そういった意味では、カテーテルタイプでの FFR 測定は確実にシンプルにステント留置後の FFR 測定が担保されるので、カテーテルタイプが有用である可能性がある。

FRIENDS Live2018公式webサイトにて "田中信大氏に聞く マイクロカテーテル型FFRシステム" を公開中! 詳細は是非webをご覧ください。

ACIST the power to
アシスト・ジャパン株式会社
〒112-0012 東京都文京区大塚3-11-6
大日本図書大塚3丁目ビル 7階

お問い合わせ先
FRIENDS Live 2018運営事務局
（株式会社ヴァイタリー内）
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-22-5F
E-mail：friendslive@vitaly.jp